

【ポスター発表】

児童養護施設における被虐待児の問題行動とそれに対する支援**—保育士のインタビュー調査からの分析—**

○ 中部大学 蘇 珍伊 (5274)

権 法珠 (岡崎女子短期大学・2734)

キーワード：児童養護施設、被虐待児、保育士

1. 研究目的

近年、子育てをめぐる環境も大きく変容し、経済的な負担や育児負担、子育て家庭の孤立化などが養育者の育児不安の原因となり、虐待につながることも考えられる。年々児童虐待が増加している中、児童養護施設に入所する理由として虐待による入所が急増しており、子どもの大半は虐待を受け傷ついた心身を回復できるような適切な支援を必要としている。そのため、児童養護施設では、被虐待児童が抱えている問題行動について理解することと、どのように支援すべきなのかが課題となっている。そこで、本研究では、児童養護施設における被虐待児の問題行動、それに対する保育士の支援について明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、児童養護施設において被虐待児童の支援にかかわる保育士の役割に焦点を当て、A県S市内の児童養護施設で被虐待児の直接的ケアを担当している保育士、個別対応職員、家庭支援専門相談員の3人に対してグループインタビュー調査を行った。調査期間は、平成23年2月8日、9月15日、平成24年2月6日の3日間であった。調査方法は、半構造化面接法によるグループインタビュー調査であり、調査内容は、①基本属性、②担当業務、③入所児童の状況（入所人数や理由など）、④被虐待児の特徴および問題行動について、⑤被虐待児への支援内容および支援方法についてインタビューガイドに沿って尋ねた。分析方法は、録音されたインタビューの逐語録を作成し、先行研究における被虐待児が抱えている問題、被虐待児への支援内容を参考に、①被虐待児の問題行動と②被虐待児への支援に相当するデータを抽出して整理する質的内容分析を行った。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮としては、まず、調査対象者に対し、あらかじめ依頼状で研究趣旨および目的、方法を説明し、グループインタビュー協力への承諾を得た。また、グループインタビューを行う前にプライバシーの保護や録音、データの取り扱いについて十分に説明を行い、研究者と調査対象者との間で研究同意書を交わした。

4. 研究結果

(1) 被虐待児の問題行動

心身発達面では、被虐待児は、養育者から虐待を受けたことによって、感情や感覚の調整機能の低さ、言語能力の低さ、自己肯定感・向上心が低い、無気力、精神疾患といった問題がみられた。社会性・人間関係面では、被虐待児は、基本的生活の乱れ、社会生活能力の低さ、暴力・暴言、大人への不信、人の様子をうかがって行動する、気持ちの表現が劣っているとといった問題がみられた。その他、性的行為の模範行動などの問題行動もみられた。

(2) 被虐待児への支援

児童養護施設における被虐待児への支援について、直接的ケア担当保育士、個別対応職員、家庭支援専門相談員が連携しながらそれぞれの役割を果たしていた。直接的ケア担当保育士は、被虐待児にできるだけ家庭のような生活を提供する、安定した生活を送るための支援を行っている。また、心のケア（信頼関係および愛着形成）にも気を配り、生活習慣の指導などを行っている。次に個別対応職員は、個別的な関わりを通じての情緒の安定等を図り、施設生活へ適応、人間関係などについて支援している。家庭支援専門相談員は、被虐待児に最も大きな影響を与えた養育者に対する指導を行い、一時帰省、児童相談所との連携、退所後のケアの部分で、被虐待児やその家庭に対し支援を行っている。

5. 考察

様々な先行研究において被虐待児の問題行動の中には、思考、知識、言動が劣っている傾向が見られ、そのような傾向が見られる被虐待児は、養育者の影響を受けている場合が多いと指摘されている。本研究の結果からも虐待家庭での養育者は、子どもに対して暴力・暴言で表現している場合が多く、そのような表現方法を見て育った被虐待児は、暴力・暴言といった表現方法で他人と関わることもあり、そのような問題行動が日常でも現れることが考えられ、その問題行動の背景を理解しながら適切な支援を行うことが求められる。また、本研究の結果、直接的ケア担当保育士は、被虐待児が安定した愛着形成ができるような関係づくりおよび環境整備に力を入れていることがうかがえた。特別に何かしてあげるわけでもなく、子どもたちが当たり前のように衣・食・住が整って生活できるように支援していることが基本であり、大切なことであることがうかがえた。また、個別対応職員は、被虐待児の心の問題を解消するために、個別相談による心の安定を図っているが、それ加えて心理療法担当職員等の専門職による介入が求められる。家庭支援専門相談員は、被虐待児と養育者の親子関係の改善に対して支援をすることがうかがえた。最後に、虐待を受けた子どもの心の問題を全て取り除くことは難しいが、被虐待児の問題行動をよく理解し、一人一人の問題にあったより専門的な支援方法を考えていくことが今後の課題である。